総目次

◎「東海学園国語国文」総目次（創刊号～第五十九号）

・創刊号（昭和四十五年 七月）

更級日記一つ二つ

『百椿集』にあらわれた安楽庵策伝の人間像

湛澄文献解題

アクセントより見た「多し」の音韻について

サ変動詞について — 漢語サ変動詞の構造 —

徳川竹姫の婚礼調度献上目録

宮田 光

関山 和夫

熊谷 武至

小島 幸枝

田島 毓堂

北条 秀雄

・第二号（昭和四十六年 三月）

愛知医大時代の木下李太郎（その二）

小寺玉晁論（上）

正法眼蔵の表記法 — 道元・懷持筆本における —

「芳雲和歌集類題」傍注

「奥田大和」ノート

延広 真治

関山 和夫

田島 毓堂

熊谷 武至

田淵 幸恵

・第三号（昭和四十七年 三月）

浅井了意の自筆版下本をめぐって

未翻刻猿猴庵日記（その一） — 栗田文庫本 —

「小原歌舞伎」 — その概要 — （一）

古事記地名索引 — 付、地名由来説話索引 —

正法眼蔵随聞記語彙表（上）

北条 秀雄

延広 真治

山内 絹代

木戸由紀子・窪寺みちる

近藤 洋子・鈴木 幸子

田島 毓堂・西川まさ美

服部登美子・前田 政子

・第四号（昭和四十八年 三月）

「春庭翁家集」（柴田顕光写本）

小寺玉晁論（二）

「小原歌舞伎」 — その概要 — （二）

中村本『夜寝覚物語』の改作態度について

正法眼蔵随聞記語彙表（下）

熊谷 武至

関山 和夫

山内 絹代

宮田 光

近藤 洋子・鈴木 幸子

田島 毓堂・西川まさ美

服部登美子・前田 政子

・第五号（昭和四十八年 十二月）

『当世書生気質』の文章体

南蛮柿をめぐって — 「コリヤードの辞書」の覚え書から —

乾坤院本正法眼蔵の本文 — その一、誤写について —

長円寺本正法眼蔵随聞記の音便

十六夜日記語彙表

栗田 靖

小島 幸枝

田島 毓堂

近藤 洋子

加藤 藤子・近藤喜美子

田島 毓堂・三浦 府

・第六号（昭和四十九年 三月）

子規における短歌の革新 — 「趣向の変化」と「複雑なる趣向」 —

氷室長翁家集

小寺玉晁論（三）

乾坤院本正法眼蔵の本文 — その二、系統的性格について —

「後拾遺和歌集」作者表記私記（一）

栗田 靖

熊谷 武至

関山 和夫

田島 毓堂

嘉藤久美子

十六夜日記語彙表(下)

加藤 藤子・近藤喜美子
田島 毓堂・三浦 府

・第七号(昭和五十年 三月)

鐸舎奉納歌

正法眼蔵のサ変動詞 — その用例(二) — 熊谷 武至
田島 毓堂

原田版「こんてむつすむん地」の版式をめぐる問題から

— キリシタン語学研究の視点について — 小島 幸枝

広島の神楽(一) 今西 邦子

織部型灯籠について — 名古屋周辺における — 吉田 安子

蒙古襲来絵詞詞書語彙表 神谷 尚子・川口 孝子
川戸 京子・田島 毓堂

・第八号(昭和五十年 九月)

宇都宮綱根「上京日記」 熊谷 武至

正法眼蔵のサ変動詞 — その用例(四) — 田島 毓堂

越飛国境地帯におけるチョーダイ(寝室)という語について 真田 信治

「ゆめのあと」諸本考(二) 安田 文吉

虚子の写生文と小説 — 明治期を中心に — 小島 千鶴

サントスの御作業の内抜書 — 聖ジョザハツ伝 — (翻字) 綾部 明子

当麻曼茶羅縁起詞書総索引 加藤 和子・加藤 裕子
田島 毓堂

改編日西辞書(2) — コリヤード西日辞書稿本より — 小島 幸枝

・第九号(昭和五十一年 三月)

「朝三日記」による「亮々遺稿」考 熊谷 武至

「叫びの説」の研究 — 左千夫晩年の歌論の性格 — 貞光 威

日露戦争従軍の志 — 資料碧梧桐書簡の紹介 — 栗田 靖

近世唱導資料 関山 和夫

「ゆめのあと」諸本考(三) 安田 文吉

鎌倉時代物語における幼児の描写について 宮田 光

正法眼蔵のサ変動詞 — その用例(五) — 田島 毓堂

改編日西辞書(3) — コリヤード著西日辞書稿本より — 小島 幸枝

「海紅」総目録(1) 栗田 靖・林 幸子

吉備大臣入唐絵詞・吉備大臣物語本文並びに総索引 柿平五三子・倉田 理恵
田島 毓堂

・第十号(昭和五十一年 九月)

「享保千首」考 — 光栄篇 — 熊谷武至

「ゆめのあと」諸本考(四) 安田文吉

左千夫における自然の影響 貞光 威

正法眼蔵のサ変動詞 — その用例(六) — 田島毓堂

語順についてのノート 寺川みち子・丹羽一彌

改編日西辞書(4) — コリヤード著西日辞書稿本より — 小島幸枝

説教資料紹介(1) — 『説法百華園』(翻刻) — 関山和夫

「海紅」総目録(二) 栗田 靖・林 幸子

男衾三郎絵巻詞書本文並びに総索引 田島 毓堂・平野由美子

岐阜県数河方言の生活語彙 丹羽 一彌・野口 敦子

愛知県沿岸漁村語彙 — 網・風・雲・天候 —

・第十一号〈北条秀雄教授退休記念〉（昭和五十二年 三月）

こすいてん

伊素志乃屋歌集

子規と一茶

水室長翁伝

名古屋常磐津史考 — 岸沢古寿満をめぐって—

唱導家浅井了意

六条御息所考 — 準拠と関連して—

頭中将について — その権門意識をめぐって—

山上憶良梅花の歌について

接尾語「げ」の語義構成上の性質

動詞分類の一方

トル・ヨル考

正法眼蔵のサ変動詞 — その用例（八）—

国宝粉河寺縁起絵巻詞書本文並びに総索引

「海紅」総目録（三）

李商隱の無題詩について

改編日西辞書

小島 幸枝・樽谷その子
富田 典子・樋渡 洋子
水野 絹子・望月千奈美
森 幸子・山本 仁美

北条 秀雄

熊谷 武至

栗田 靖

鈴木 園子

安田 文吉

関山 和夫

宮田 光

近藤 洋子

貞光 威

進藤 義治

寺川みち子

丹羽 一彌

田島 毓堂

田島 毓堂・西岡真佐子

栗田 靖・林 幸子

森瀬 壽三

小島 幸枝

・第十二号（昭和五十二年 八月）

江戸における堂上派 — その一 長谷川安郷 —
説教資料紹介 — 『説法百華園』（翻刻）？—

熊谷 武至
関山 和夫

正法眼蔵のサ変動詞 — その用例（十）—

日本語における語末辞書の試み

華嚴縁起絵巻詞書本文並びに総索引

長谷雄雙紙詞書本文並びに総索引

「海紅」総目録（四）

〈新刊紹介〉

田島毓堂博士著『正法眼蔵の国語学的研究』

散文目録抄

江戸に於ける堂上派（その二）京極高門

「大君は神にしませば」考 — その神表現をめぐって—

還俗僧の万葉歌人

宇治八宮考

徳川御台所と献上本

「椿園長翁詠」について

説教資料紹介（三）『説法百華園』（翻刻）（3）

『赤光』と連作の世界 — 左千夫・茂吉・誓子—

碧梧桐とルビ俳句

「海紅」総目録（五）

石川桂郎研究断片 — 石田波郷との関係を中心に—

写経史からみた文字 — 貞香会所蔵写経から—

奈良平安時代和文脈系文学の基本語彙の分類に関する試み（一）

豊明絵草子本文並びに総索引

田島 毓堂

丹羽 一彌

久留宮京子・田口 陽子

田島 毓堂

田島 毓堂・丹羽 一恵

栗田 靖・林 幸子

小島 幸枝

熊谷 武至

熊谷 武至

熊谷 武至

田中 文雅

佐久間 竜

宮田 光

藤井 裕子・武田 明子

寺本 和美・北条 秀雄

鈴木 園子

関山 和夫

貞光 威

栗田 靖

栗田 靖・林 幸子

大森 澄雄

深谷 孝玄

嘉藤久美子

田島 毓堂・中村 悦子

正法眼蔵のサ変動詞 — その用例 (十一) (漢字二字ナクホ) —

子どものあそびことば — 愛知県 —

田島 毓堂

久留宮敏江・小島 幸枝

近藤 圭子・坂倉恵美子

林 三千代・山田 淳子

仲 しづ子・丹羽 一彌

寺川みち子

尾鷲方言の丁寧表現

意味について

〈講演〉いわれるもの

熊谷武至先生 (近藤洋子 記)

第十四号 (昭和五十三年 十月)

江戸に於ける堂上派 (その三) 内藤正範

説教資料紹介 (四) 『説法百華園』 (4)

左千夫短歌におけるナシヨナリズム — 万葉理解を通して見た —

熊谷 武至

関山 和夫

貞光 威

松井 利彦

栗田 靖

森瀬 壽三

田島 毓堂

弘美

葉月物語絵巻詞書本文並びに総索引

第十五号 (昭和五十四年 三月)

人麿歌の表現をめぐって — その神話的発想を中心に —

田中 文雅

熊谷 武至

江戸に於ける堂上派 (その四) 石野広通

説教資料紹介 (五) 菅原智洞著 『説法百華園』 (翻刻)

「椿園門下歌集」 (水室長翁門下の歌集) 紹介

作文教育に於ける自己表現 — 明治の教育制度に於ける —

関山 和夫

鈴木 園子

松井 利彦

貞光 威

赤塚 正幸

岩田 賢子

鈴木 昌子・戸谷 由美

赤堀加代子・秋田 治美

大口 久恵・奥 香津子

平田 直子・宮田ゆかり

小島 幸枝 (責)

栗田 靖

松井 利彦

矢野 文博

矢野 文博

矢野 文博

矢野 文博

矢野 文博

安達 隆一

寺川みち子

田島 毓堂

近藤 洋子

小島 幸枝

宮田 光

熊谷 武至

明治期における左千夫評価

川端康成論 — 『感情裝飾』について —

名古屋市の生活語彙 (二) — 動詞篇 —

鈴木 昌子・戸谷 由美

赤堀加代子・秋田 治美

大口 久恵・奥 香津子

平田 直子・宮田ゆかり

小島 幸枝 (責)

栗田 靖

松井 利彦

矢野 文博

矢野 文博

矢野 文博

矢野 文博

矢野 文博

安達 隆一

寺川みち子

田島 毓堂

近藤 洋子

小島 幸枝

宮田 光

熊谷 武至

「海紅」総目録 (第二期) 下

「旗艦」「琥珀」評論年表

〈書評〉

田島毓堂・丹羽一彌共編 『日本語尾音索引』 — 現代語篇 —

矢野 文博

矢野 文博

矢野 文博

矢野 文博

矢野 文博

安達 隆一

寺川みち子

田島 毓堂

近藤 洋子

小島 幸枝

宮田 光

熊谷 武至

第十六号 (昭和五十四年 九月)

日本語啓蒙

文章における文の時間性 — 「は」と「が」の関連において —

安達 隆一

寺川みち子

田島 毓堂

近藤 洋子

小島 幸枝

宮田 光

熊谷 武至

段落・談話の構造

正法眼蔵随聞記総索引 (二) — あ —

東洋文庫ドチリナの本文にかかる虫損の判読について

朱雀院ノート (一)

江戸における堂上派 (その五) 松井幸隆

熊谷 武至

校注『醒睡笑』(一)

楽境と苦境と — 露伴「苦心録」の周辺 —

「鶴川」総目録(上)

栗田 靖
但馬 容子・長谷部敏子
関山 和夫
藤井 淑禎

〈書評と紹介〉

関山和夫著『説教の歴史』

小島幸枝編『耶穌会板落葉集総索引』

服部 幸雄
酒井 憲二

・第十七号(昭和五十五年 三月)

『悉皆屋康吉』続篇について

校注『醒睡笑』(2)

朱雀院ノート(二)

「鶴川」総目録(下)

但馬 容子・長谷部敏子
栗田 靖
近藤 洋子・田島 毓堂

〈書評と紹介〉

正法眼蔵随聞記総索引(二) —い—

栗田 靖著『子規と碧梧桐』

白川 静著『初期万葉論』

清水 孝之
田中 文雅

・第十八号(昭和五十五年 九月)

「野菊の墓」の周辺(二)

浮雲の四年間・I — 流行世相の推移を軸に・I —

校注『醒睡笑』(3)

宇都宮綱根和歌拾遺

小集落の言語と方言地図

紀州串本地方の生活語彙(二)

碧梧桐個人誌「碧」総目録

貞光 威
藤井 淑禎
関山 和夫
鈴木 園子
丹羽 一彌
浜口 久美・小島 幸枝
村松百合子・堀田 直子
栗田 靖

〈書評と紹介〉

貞光 威著『歌人伊藤左千夫』

関山和夫編『説法百華園』

西浦 英之
H

・第十九号(昭和五十六年 三月)

浮雲の四年間・II — 流行世相の推移を軸に・2 —

「野菊の墓」の周辺(二)

校注『醒睡笑』(4)

「冬三十題獨吟歌合」と千本松原観月会詠草について

法華経の為字和訓 — 「得」「被」と注される場合 —

紀州串本地方の生活語彙(二)

俳誌「白塔」評論年表

〈書評〉

栗田 靖著『山口誓子』

丹羽一彌・杉山代志子・鋤柄乃吏子著

『三重県南牟婁郡のことば』評

田島 毓堂
栗田 靖
目崎 徳衛
矢野 文博

田中 文雅
熊谷 武至
鈴木 園子
藤井 淑禎
伊藤 淑人

田島 毓堂
近藤 洋子

・創刊二十号記念(昭和五十六年 十月)

賀茂真淵の万葉研究 — 『万葉考』への軌跡 —

「賀茂翁家集」木活本

羽鳥春隆

浮雲の四年間・III — 流行世相の推移を軸に・3 —

啄木の初期論文 — 「ワグネルの思想」について —

正法眼蔵の一語法 — アラズヨリハのズの活用形を中心にして —

「ゆく」と「もてゆく」

田中 文雅
熊谷 武至
鈴木 園子
藤井 淑禎
伊藤 淑人
田島 毓堂
近藤 洋子

『スピリツアル修行』の複数形 — キリシタン文献における翻訳の一端 —

「廣日本文典」の研究序説 (1)

南紀方言「すみれ」の語史とウマガチ

『恋路ゆかしき大将』注解 — 卷一 (1) —

校注『醒睡笑』(5)

城の崎俳三味稿 — 碧梧桐作品 —

『東海学園国語国文』総目次

『恋路ゆかしき大将』注解 — 卷一 (3) —

城の崎俳三味稿 — 塩谷鶴平作品 —

・第二十三号 (矢野文博教授退休記念) (昭和五十八年 三月)

日本語論彙

我が語法体系

「中将姫」の系譜

賀茂真淵の万葉研究 — 歌風・歌人評の位相をめぐって —

桂園派の紀行文

浮雲の四年間・IV — 流行世相の推移を軸に・4 —

啄木を形成した人々 — 樽牛、晶子、嘲風 —

『和名類聚抄』における万葉仮名 — 諸本及びその系統間に見られる使用状態の違い —

正法眼蔵隨聞記の音便 — 長円寺本・慶安本・明和本の音便について —

微細言語地図の調査法について

『恋路ゆかしき大将』注解 — 卷一 (4) —

田中 文雅
鈴木 園子
藤井 淑禎
伊藤 淑人
近藤 洋子
丹羽 一彌
宮田 光

・第二十一号 (昭和五十六年 十一月)

「現存和歌」 「現存和歌六帖」の成立

連夜説教『三莊太夫』考

「野菊の墓」の周辺 (三)

『五番町夕霧楼』の復権

文を含む句のいろいろ

『恋路ゆかしき大将』注解 — 卷一 (2) —

城の崎俳三味稿 — 中塚一碧楼作品 —

〈書評〉

西浅井町口承文芸調査団編『西浅井むかし話』

・第二十二号 (昭和五十七年 十月)

文章の分析観点と構造記述 — 「天声人語」を例として —

「廣日本文典」の研究序説 (2)

「望の夜集」小考

乳業家として見た伊藤左千夫

石川啄木 — ワグネルとの別れ —

『雁の寺』の構図 — 「一休」への道程 —

・第二十四号 (昭和五十八年 十月)

正法眼蔵のサ変動詞 — その用例 (十三) (漢字三字) —

二巻本『世俗字類抄』仮名索引 — 一 —

小林一茶と浄土教信仰

世中百首

『金閣炎上』論序章 — 「熊野」の意味するもの —

『恋路ゆかしき大将』注解 — 卷一 (5) —

和歌山県熊野川町方言における使用語の共通語化と消失

小島 幸枝
矢野 文博
丹羽 一彌
宮田 光
関山 和夫
栗田 靖
安田 徳子
関山 和夫
貞光 威
藤井 淑禎
寺川みち子
宮田 光
栗田 靖
松浪 久子
安達 隆一
矢野 文博
鈴木 園子
貞光 威
伊藤 淑人
藤井 淑禎
宮田 光
田島 毓堂
三宅ちぐさ
関山 和夫
鈴木 園子
藤井 淑禎
宮田 光

・第二十五号(昭和五十九年 三月)

二卷本『世俗字類抄』仮名索引 一―
『醒睡笑』仏書考

貧窮百首

荷風「勲章」の構造

『恋路ゆかしき大将』注解 一巻二(1) 一

丹羽 一彌

三宅ちぐさ

関山 和夫

田島 園子

藤井 淑禎

宮田 光

森鷗外の俳句 一正岡子規との交流を通して 一 松井 利彦
水の底の国 一三重吉と不如帰の時代 一 藤井 淑禎
近世文法研究書における「図」 一 建部 一男
『恋路ゆかしき大将』注解 一巻二(3) 一 宮田 光
二卷本『世俗字類抄』仮名索引 一五― 三宅ちぐさ

・第二十九号(昭和六十一年 三月)

薰二十七才の一年間 一年次別物語内容文章量一覧より 一

進藤 義治

賀茂真淵の万葉研究 一『万葉大考』にみる歌人評の構造 一

田中 文雅

森鷗外の軍服 一「文づかひ」挿絵の騎兵科将校 一 松井 利彦

夏目家文章会について・ノート 一 藤井 淑禎

日本の狐考 一古典と児童文学にみる 一 近藤 洋子

活用・構文の研究と図の問題 一近世文法研究書に関して 一

建部 一男

熊野市山間部の方言分布

丹羽 一彌

『恋路ゆかしき大将』注解 一巻二(4) 一

宮田 光

二卷本『世俗字類抄』仮名索引 一六― 三宅ちぐさ

〈新刊紹介〉
源家長日記研究会編著 『源家長日記校本・研究・総索引』

文責 宮田 光・田島 園子

美濃部重克・田中文雅編 『室町期物語』二 伝承文学資料集第

十二輯 文責 田中 文雅

・第三十号記念号(昭和六十一年 十二月)

帚木三帖考 一 宮田 光

賀茂真淵の古代歌謡研究 一『冠辞考』にみる記紀歌謡とその方

・第二十六号(昭和五十九年 十月)

「言語構造式」の構造 活用研究史の問題として

『浮雲』研究の現段階

初期啄木の国家観の成立 一「戦雲余録」を軸として 一

伊藤 淑人

三宅ちぐさ

二卷本『世俗字類抄』仮名索引 一三一―

関山 和夫

・第二十七号(昭和六十年 三月)

將校相当官森鷗外 一軍制に於ける軍医の位置 一

松井 利彦

古今伝受後の智仁親王(二) 『歌口伝心持状』をめぐる

小高 道子

野村伝四 一不如帰の時代の青年像 一

藤井 淑禎

稿本日本語典について

建部 一男

『恋路ゆかしき大将』注解 一巻二(2) 一

宮田 光

二卷本『世俗字類抄』仮名索引 一四― 三宅ちぐさ

・第二十八号(昭和六十年 九月)

伊藤左千夫の習作期の歌風

貞光 威

法一

説教源氏節の終焉

菅沼定敬

啄木像への提言

子規の短歌革新と俳句仲間

明治二、三十年代の結核をめぐるメモ

森鷗外と兵食 — 白米食について —

白秋の童謡指導 — 「赤い鳥」を通してみた —

二巻本『世俗字類抄』の同義異表記語

「深秘三爾波本言傳 聞書」について

詞と辞と

常用漢字常用和訓 — 仮名資料としての源氏物語絵巻詞書における —

和歌山県那智勝浦町における方言伝播と語形変化

〔新刊紹介〕

建部一男著『近世日本文法研究史論』

安田孝子・河野啓子・梅野きみ子・森瀬代土枝・野崎典子校注

『撰集抄上』

文責 野崎 典子

・第三十一号 (昭和六十二年 三月)

安楽庵策伝の出自について — 岩波文庫『醒睡笑』解説への異見 —

森鷗外の結婚 — 幻の閨閥 —

明治二、三十年代の結核をめぐるメモ (承前)

童謡の抒情 — 西条八十の場合 —

四種の図解

田中 文雅
関山 和夫
田島 園子
伊藤 淑人
栗田 靖
藤井 淑禎
松井 利彦
近藤 洋子
三宅ちぐさ
建部 一男
矢野 文博
田島 毓堂
丹羽 一彌

・第三十二号 (昭和六十二年 九月)

西条八十の歌謡詩 — 「東京行進曲」 — 近藤 洋子

正法眼蔵のサ変動詞 — その用例 (十四) (漢字四字ア〜コ) — 田島 毓堂

「掌の小説」の文章について — 冒頭部分を対象とする — 安達 隆一

『恋路ゆかしき大将』注解 — 卷三 (一) — 宮田 光

森鷗外医事年譜 三宅ちぐさ

二巻本『世俗字類抄』仮名索引 — 七 — 松井 利彦

〈第17回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〉

山部赤人研究 吉川 弘恵

兼好の色彩観 — 兼好法師集と徒然草より「月」・「花」 — 岩瀬 里香

中原中也研究 — 死について — 加治佐静子

二葉亭四迷の表記と文体 鈴木 裕美

いぼじり巻発掘 — 浮雲の四年間・番外編 — 藤井 淑禎

森鷗外と台湾 — 軍医部長交代の問題 — 松井 利彦

唱歌にみる天然美の推移 — 『日本風景論』の影響 — 近藤 洋子

正法眼蔵のサ変動詞 — その用例 (十五) (漢字四字サ〜ソ) — 田島 毓堂

速記本の漢字表記語の一面 — 『権牡丹燈籠』を中心に — 田島 優

編年香川景樹歌集 — 『桂園一枝』より — 田島 園子

二巻本『世俗字類抄』仮名索引 — 八 — 三宅ちぐさ

建部一男先生業績一覧

・第三十三号 (昭和六十三年 三月)

・第三十四号 (建部一男先生追悼) (昭和六十三年 十一月)

建部一男先生業績一覧

建部一男先生業績一覧

建部一男先生業績一覧

建部一男先生業績一覧

建部一男先生業績一覧

建部一男先生業績一覧

『死霊解脱物語聞書』の価値
実情論の再検討

明治開化和歌集における新題

森鷗外のドイツ留学 — 陸軍将官との交叉年譜 —

軍歌の成立 — 「抜刀隊」ほか —

漢字表記と一致しない字音語ルビ — 『牡丹燈籠』を中心に —

『恋路ゆかしき大将』注解 — 卷三(2) —

二巻本『世俗字類抄』仮名索引 — 九 —

〈第18回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〉

「隠す」ということ — 『源氏物語』の場合 —

女房詞の変遷

「夏目漱石」 — 病氣と関連作品について —

向田ドラマにおける「家族」の変遷

関山 和夫

櫻井 進

田島 園子

松井 利彦

近藤 洋子

田島 優

宮田 光

三宅ちぐさ

丸山 恵

長崎 恵美

伊藤嘉奈子

田島 祐子

・第三十五号(平成元年 三月)

改曆と明治俳諧

幻影の他者／特権化する自己(上) — 近代後期歌論の言説的

定位への試み —

文章構造の記述について

『恋路ゆかしき大将』注解 — 卷三(3) —

二巻本『世俗字類抄』仮名索引 — 十一 —

松井 利彦

櫻井 進

安達 隆一

宮田 光

三宅ちぐさ

・第三十六号(平成元年 十一月)

幻影の他者／特権化する自己(下)

「かしはばやしの夜」以下三作品の成立時期に関する疑問

漱石の和歌浦とマスコミの現況

櫻井 進

井上 寿彦

恩田 雅和

『恋路ゆかしき大将』注解 — 卷四 —

二巻本『世俗字類抄』仮名索引 — 一一 —

〈第19回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〉

大津皇子と大日皇女歌研究

『道中膝栗毛』の笑いについて

「志賀直哉の自然について」

高村光太郎研究 智恵子の悲劇の要因

〈新刊紹介〉

関山和夫著『庶民仏教文化論 — 民衆教化の諸相』

山田達也・丹羽一彌著『愛知県の方言』

宮田 光

三宅ちぐさ

三宅規紅子

高原 香織

園 まゆみ

神田 庸子

関山 和夫

田島 優

・第三十七号(平成二年 三月)

『家族ゲーム』論

虫の名称に見られる地域生活 — 瀬戸地方における蟋蟀の命名法 —

〈読み〉の指導についての考察

二巻本『世俗字類抄』仮名索引 — 一二 —

反転の物語／物語の反転

中学生の使用語とその男女差

近藤 洋子

田島 優

井上 寿彦

三宅ちぐさ

櫻井 進

丹羽 一彌

・第三十八号(平成二年 十月)

子規短歌の発想に関わる万葉集

「坊っちゃん」の中の子どもの領分

遙空以降の女歌論

安楽庵策伝新資料紹介 — 長谷寺藏 『策伝和尚書状』 —

二巻本『世俗字類抄』仮名索引 — 一三 —

〈書評〉

松井 利彦

井上 寿彦

加藤 孝男

関山 和夫

三宅ちぐさ

松井利彦著 『軍医森鷗外 — 統帥権と文学 —』 平岡 敏夫
〈第20回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〉

宇治大君について

『平家物語』における源頼朝と木曾義仲

宮沢賢治の自然描写について

瀬戸市における「ものもらい」の方言

片山 薫

原田しのぶ

藤井 幹子

山崎 貴子

・第三十九号 (平成三年 三月)

子規と新体詩

群集と孤独 — 近代三詩歌人の軌道 —

野から森、そして林へ — 宮沢賢治作品試論 —

和語と漢字表記の対応関係 — 『坊っちゃん』を利用して —

松井 利彦

伊藤 淑人

井上 寿彦

田島 優

二巻本『世俗字類抄』仮名索引 — 一四 —

正法眼蔵のサ変動詞 — その用例 (十六) (漢字四字タノ乙) —

団地移住者の言葉と団地周辺の方言

三宅ちぐさ

田島 毓堂

丹羽 一彌

・第四十号 (平成三年 十一月)

虚子と漱石

子規と陸羯南資料『拓川集』より

戦後短歌アンソロジーの可能性 — 『白き山』の「選」をめぐって —

振り仮名から見えてくること — 通時的視点から —

『恋路ゆかしき大将』注解 — 巻五 (1) —

日本映画 — その興行、芸術、現代の映像文化考 (1) —

松井 利彦

松井 利彦

加藤 孝男

田島 優

宮田 光

山川 和雄

〈第21回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〉

夏目漱石の交友

萩原朔太郎の詩と恋

北川冬彦の詩作品とその時代批評精神

額田王像の変遷

中島 理恵

石田 温子

社本 直子

石川 豊子

・第四十一号 (平成四年 三月)

斎藤茂吉の近代短歌史観

生徒と教師のいる風景 — 啄木と賢治の教室 —

『勿体なし』・『勿体』考 — 『かたこと』を読む —

〈書評〉

鈴木棠三著 『中世の笑い』 — 「僧院の笑話」を中心に —

加藤 孝男

井上 寿彦

田島 優

関山 和夫

・第四十二号 (平成四年 十月)

夜咄の俳諧 — 伽と百物語 —

明代知識人の一側面 — 羅近溪の隠された人間像 —

『恋路ゆかしき大将』注解 — 巻五 (2) —

放送のはじまり 上 — アメリカ放送史研究 (1) —

小林 幸夫

佐野 公治

宮田 光

堀田 正男

〈第22回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〉

長屋王の生涯とその周辺

『枕草子』における不快感の表現 — 類聚的章段を中心に —

宮沢賢治論 — 「グスコブドリの伝記」について —

奥田 有美

宮地 敦子

榎谷 綾子

・第四十三号 (平成五年 三月)

ことば遊びの文芸 — 秀句頓作と咄 —

語彙論における集団的規範と個別的表現 — 付、語彙論の用語に

小林 幸夫

関する授業―

奈良仏教への一視点 ―戒律と受戒―

田島 毓堂
佐久間 竜

放送のはじまり 下 ―アメリカ放送史研究(1)―

堀田 正男

・第四十四号(平成五年 十月)

詩話と公案 ―饅頭の秀句―

小林 幸夫

名古屋博物館本『和名類聚抄』の標出漢字列 ―および註文の

性格(巻一〜四)―

樋野 幸男
渡辺 里志

平安時代の仏伝図と寺院堂塔の荘嚴

サタジツト・レイ ―もう一つの顔 ―ファンタジーの世界―

森本素世子

商業放送のはじまり 上 ―アメリカ放送史研究(2)―

堀田 正男

〈第23回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〉

滝沢馬琴の研究 ―挿絵でみる八犬士―

今井あや子

女形の出現と歌舞伎

田中恵美子

美濃地方の祭りの研究 ―西濃地方を中心として―

渡邊 裕美

米の大学生事情 ―大学で何を学ぶのか―

田中 恵

・第四十五号(平成六年 三月)

〈はね字〉の遊び ―聯句・連歌・咄―

小林 幸夫

イーハトウ童話『注文の多い料理店』における〈自然と人間〉

井上 寿彦

『恋路ゆかしき大将』注解 ―巻五(3)―

宮田 光

いろは(色葉・伊呂波)字類抄疊字門の重掲出語について

田島 優

商業放送のはじまり 中 ―アメリカ放送史研究(2)―

〈書評〉

加藤孝男著 『美意識の変容』

堀田 正男
藤岡 武雄

・第四十六号(平成六年 十一月)

靈照女掛絵と孝子譚

小林 幸夫

『恋路ゆかしき大将』注解 ―巻五(4)―

宮田 光

『暗い部屋』にみるインドの女性

森本素世子

商業放送のはじまり 中の二 ―アメリカ放送史研究(2)―

堀田 正男

〈第24回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〉

長屋王について

阪井奈穂子

橘三千代について

松井 暁子

華嚴宗祖師絵伝について ―義湘絵を中心に―

永田 淳子

・第四十七号(平成七年 三月)

陽明門院禎子内親王の生涯 ―榎子内親王の周辺について―

嘉藤久美子

西行狂歌咄論 ―歌徳説話と狂歌咄―

小林 幸夫

〈有標の仮名〉として機能する仮名

樋野 幸男

商業放送のはじまり 下の一 ―アメリカ放送史研究②―

堀田 正男

・第四十八号(平成七年 十月)

『醒睡笑』の白髮天神説話から ―咄の編集へ― 小林 幸夫

明治二十年前後のことばの動き ―『雪中梅』の初版と訂正増補

版を資料として― 田島 優

魏志倭人伝にみる「倭国大乱」と考古学 ―その問題の所在を

ぐって―

商業放送のはじまり 下の二 ―アメリカ放送史研究②―

丸山 竜平
堀田 正男

・第四十九号(平成八年 三月)

笑話と座頭 ―言葉遊びの伝承―

『いさよい』 ―翻刻と校異―

統・魏志倭人伝にみる「倭国大乱」と考古学

遺跡の環濠集落をめぐって(上)―

〔第25回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〕

『煙草と悪魔』について

四日市弁 ―若者の使うヤンについて―

徳国の古墳の研究 ―豊川流域を中心として―

狂言の成立とその歴史的考察

・第五十号記念(平成八年 十一月)

「前渡り」考 ―道綱母の場合―

啄木(北国彷徨から大都市へ)

三浦哲郎作品論ノート ―父親へのまなざし―

〔新説〕八十日間世界一周』における字順の相反する二字漢語

統統・魏志倭人伝にみる「倭国大乱」と考古学

台遺跡の環濠集落をめぐって(中)―

〔第26回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〕

「方言のイメージ」について

星曼茶羅について ―二十八宿の図像を中心に―

「日本人の微笑み」の外国人の笑い ―ラフカディオ・ハーン

の見た日本人の微笑み―

丸山 竜平
堀田 正男
小林 幸夫
宮田 光
丸山 竜平
加藤 晶子
齊藤みどり
田中 栄美
宮内 雅子
田島 優
伊藤 淑人
近藤 洋子
近藤 祥子
竹尾 靖子
加藤里英子

「東海学園国語国文」総目次(創刊号〜第四十九号)

・第五一・五二合併号(平成十年 一月)

伽と茶の湯 ―『醒睡笑』の成立―

鎌倉時代の仏伝図と寺院堂塔の荘嚴

〔寄稿〕私の演劇観 ―ロンドン観劇旅行から―

〔第27回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〕

「酒呑童子」論

「作家倉本聰とその作品論」について

幸田町のことば

勝川春章の雪月花(三幅対)について

・第五十三号(平成十年 三月)

開帳と見世物興行(1) ―広小路柳葉師の夜開帳―

愁人と謝野寛 ―第二次「明星」を読む―

芥川龍之介の人間性 ―萩原朔太郎との交友から―

「オツベルと象」小論(承前) ―オツベルの世界と象の世界―

井上 寿彦

・第五十四号(平成十年 十二月)

国木田独歩「忘れえぬ人々」と「窮死」

印英文学にみるインド的アイデンティティ ―R・K・ナラヤン

を中心として―

文学作品と音読・朗読

名古屋の短大生のアクセント ―聞かせて選択させる調査から―

寺川みち子

小林 幸夫
渡辺 里志
小林ひろし
廣瀬 習子
片淵由紀枝
近藤 寿江
洪川 絵里
小林 幸夫
加藤 孝男
伊藤 淑人
伊藤 淑人
森本素世子
高野 春廣

・第五十五号 (平成十一年 三月)

「清水寺参詣曼荼羅」の絵解き — 三本卒塔婆の由来 —

小林 幸夫

名古屋アクセント覚書 — 「名古屋の短大生のアクセント」補遺 —

寺川みち子

瀬戸のことば — 文末助詞の「ン」について —

寺川みち子・長江 美怜

〈第28回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〉

惹句から見た日本の文化

「菽の中」について

「友情」 — 本当の友情 —

美濃の古陶研究 — 桃山陶を中心として

岩永 知子
柵木 郁子
森 三千穂
高木 貴代

・第五十六号 (平成十一年 五月)

国語教育と音読

東海学園女子短期大学学生の敬語意識

『いさよひ』 — 索引 —

〈第29回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〉

『あさきゆめみし』の表現方法 — 六条御息所を中心に —

出雲の阿国について — 『歌舞伎の草子』 —

「百鬼夜行絵巻」の研究

高野 春廣
寺川みち子
宮田 光

谷口 美樹
佐々木佳奈
加藤由加里

・第五十七号 (平成十二年 三月)

龍宮童子と天人女房 — 天の橋立と聖地の物語 —

宮澤賢治の方法

文章表現の発達 (一) — 接続表現の分布 —

小林 幸夫
井上 寿彦
寺川みち子・榊原 早織

・第五十八号 (平成十二年 十二月)

鼓の秀句 — 西行の歌修行譚 —

表現から見た宮沢童話の昔話性

藤原教長『古今和歌集註』の仮名文から — 〈仮名素〉の提唱と

〈仮名字体〉の検証 —

〈第30回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〉

森鷗外研究 — 『高瀬舟』について

歌舞伎の女形芸 — 坂東玉三郎の『桜姫東文章』 —

「伊勢湾をめぐる海の文化」 — 伊勢湾における青峯山信仰 —

ついで

半谷 有美
志水 美統
三並 美穂

・第五十九号 (平成十三年 三月)

連歌の遊び — 寄合語をめぐる —

流行語 — 何が残り、何がなくなったか —

文章表現の発達? — 接続表現の分布補遺 —

〈第31回東海学園女子短期大学国語国文学会研究発表要旨〉

流行語

宮澤賢治研究 — 鳥に託したもの —

津島祭について

受贈雑誌目録

寺川みち子 榊原 早織

小林 幸夫
浅井 里美
寺川みち子
榊原 早織

浅井 里美
山田 梨恵
岩田 愛
光岡陽子編

◎「東海学園 言語・文学・文化」総目次(第一号〜終刊号)

・第一号(通巻第六十号)平成十三年 十二月

唱導史異聞 — 日本口承文藝學會に質す—

おどけ者の歌 — 「をこ」の口承説話—

賢治童話における〈自然〉と〈異世界〉

正法眼蔵のサ変動詞 — その用例(十七)(漢字四字へ〜ワ)—

《オ段長音の開合》研究史抄

関山 和夫

小林 幸夫

井上 寿彦

田島 毓堂

樋野 幸男

・第二号(通巻第六十一号)平成十四年 十二月

林羅山に於ける白居易 — 序論—

前句付けの遊びと昔話 — 幽霊済度譚の形成—

賢治と『赤い鳥』

連載小説と読者 — 戦後女性雑誌『マドモアゼル』にみる—

〈余滴〉「知足経済学」の提唱

西村富美子

小林 幸夫

井上 寿彦

近藤 洋子

村田 光平

・第三号(通巻第六十二号)平成十五年 十二月

宴の座の誹諧 — 火の軽口咄—

百人秀歌・「百人一首」の謎解明のための予備的考察(1)

— 樋口一織田— 林— 西川説の検討—

『手習学往来』漢字索引

〈余滴1〉原子力のタブーを打破しよう

〈余滴2〉『恋路ゆかしき大将』巻五の筆者

〈余滴3〉中国の詩の翻訳について

漢詩和訳—たとえば白楽天の場合—

小林 幸夫

今川 仁視

三宅ちぐさ

村田 光平

宮田 光

西村富美子

・第四号(通巻第六十三号)平成十七年 三月

『後漢書』の「方術列伝」・「逸民列伝」について 西村富美子

百人秀歌・「百人一首」の謎解明のための予備的考察(2)

— 『古今集』「春歌上」巻頭の三つの歌群の構造について—

近江醒井の泡子塚伝説

詩とは何か — 形、構成、リズム—

〈余滴〉日本の命運を左右する電力会社

近江醒井の泡子塚伝説

今川 仁視

小林 幸夫

加藤 孝男

村田 光平

村田 光平

・第五号(通巻第六十四号)平成十八年 三月

白居易の古詩の押韻について — 「長恨歌」「琵琶行」—

百人秀歌・「百人一首」の謎解明のための予備的考察(3)

— 『古今集』「仮名序」第四段後半部分の構造について—

伊勢御師の連歌話 — 醒睡笑・かさね草紙・蛭居紀談—

短歌の生成とイメージの接合 — 日本文化のシンボルとしての

二句対構造—

《オ段長音の開合》の崩壊をゆるした背景 — 正宗文庫本『節用

集』に登載された二字の漢語から—

〈余滴1〉反原発を国策とするアイルランド

〈余滴2〉六ヶ所再処理のアクティブ試験、米議員も反対

神宮連歌壇の北野天神説話

百人秀歌・「百人一首」の謎解明のための予備的考察(4)

神宮連歌壇の北野天神説話

百人秀歌・「百人一首」の謎解明のための予備的考察(4)

神宮連歌壇の北野天神説話

百人秀歌・「百人一首」の謎解明のための予備的考察(4)

神宮連歌壇の北野天神説話

百人秀歌・「百人一首」の謎解明のための予備的考察(4)

『新古今集』『春歌上』巻頭の七つの歌群の構造について―

「間の山」考 ― 歌比丘尼の間の山節―
今川 仁視

与謝野鉄幹と漢詩 初稿
小林 幸夫

〈余滴1〉原子力の危険性に目覚めたフランス報道界
西村富美子

〈余滴2〉日本の原子力政策の転換を訴える
村田 光平

・第七号(通巻第六十六号) 平成二十年 三月

度会春彦本縁 ― 度会氏の祖先祭祀―
小林 幸夫

百人秀歌・「百人一首」の謎解明のための予備的考察(5)

―『古今集』と『新古今集』における贈答歌を核とした歌群の構造について―
今川 仁視

与謝野鉄幹と漢詩 ― 『海内詩媒』の漢詩人 安藤寛―
西村富美子

『マドモアゼル』研究 ― 連載小説を中心に―
近藤 洋子

〈余滴〉「音声表現くゆたかな朗読を求めて」
と東海・音声表
高野 春廣

現研究会
〈余滴〉「原発ルネッサンス」の潮流を逆転させる中越沖地震
村田 光平

・第八号(宮田光教授退職記念号)(通巻第六十七号)

平成二十一年 三月

序

研究業績一覧
宮田 光

散逸物語『女すすみ』考
宮田 光

短歌生成の謎に迫る ― 石神遺跡の木簡から分かること―
加藤 孝男

三条西実隆の身づくろい
三宅ちぐさ

近衛家における蘇軾の詩文
松尾 肇子

「うるか問答」の遊びと民間説話 ― 鮎の狂歌話―
小林 幸夫

森田思軒と東アジア情勢
藤井 淑禎

与謝野鉄幹と漢詩 ― 『明星』第二次時代の漢詩人 與謝野 寛―
西村富美子

仏伝図と講式 ― 仏生会講式を出発点として―
渡邊 里志

「現代」の定着と「近代」―漱石の「今代」の使用を通して―
田島 優

デスによる丁寧表現
丹羽 一彌

〈研究ノート〉三浦哲郎作品論 ― 『白夜を旅する人々』―
近藤 洋子

・第九号(通巻第六十八号) 平成二十二年 三月

宿神としての妙見童女像 ― 度会氏の祖先祭祀と袍衣の祀り―
小林 幸夫

与謝野寛と朝鮮王妃暗殺事件
加藤 孝男

外交官漢詩人 堀口九萬一の詩作年譜
西村富美子

『歴代西浙詞人小伝』の著者、周慶雲のこと
松尾 肇子

吉田戦車「伝染るんです。」における心理と言葉
大場 厚志

国際人形劇フェスティバルに参加して
高橋 一元

・第十号(通巻第六十九号) 平成二十三年 三月

与謝野鉄幹と漢詩 ― 『冬柏』時代の漢詩人 與謝野 寛―
西村富美子

西脇順三郎と前衛短歌運動
加藤 孝男

林真理子とフェミニズム
北出真紀恵

詩余ものがたり 唐五代篇 ― 清・葉申薌『本事詞』―

諸星大二郎「子供の遊び」読解 — 子供が大人になるとは —

松尾肇子 訳

大場 厚志

文明論としてのマンガ — 星野之宣を通して考える —

春日井眞英

・第十一号(通巻第七十号)平成二十四年 三月

竹河巻の昇進の記事をめぐって

宮田 光

新詩社『明星』の同人 渡邊湖畔の創作活動の軌跡

西村富美子

— 短歌から漢詩への志向 —

加藤 孝男

古武術の身体 — 柳の風景が象徴するもの —

高橋 一元

海外で上演すること — 言葉の壁を越えるには —

北出真紀恵

私たちのがらんどろ

春日井眞英

「絆」の意味世界 紫門ふみに見る人間観・女性像

大場 厚志

諸星大二郎「不安の立像」読解 — 日常の中の無意識 —

松尾 肇子

詩余ものがたり 北宋篇(一) — 清・葉申郷『本事詞』 —

三宅ちぐさ

『女庭訓往来』と『頭書絵抄 和漢女礼式 女庭訓御所文庫』

小林 幸夫

— 漢字使用状態から —

第十二号(通巻第七十一号)平成二十五年 三月

「くればとり」と「女郎花」の説話伝承 — 西鶴の因果話 —

西村富美子

— 『満蒙遊記』付「満蒙遊草」の漢詩(一) —

春日井眞英

千葉蓮華の咲く祭(その一) 北設楽の花祭を考える

小林 幸夫

遍在する無意識 — 諸星大二郎の「袋の中」と「影の街」 —

大場 厚志

よしながふみ『大奥』を読む — 「純粹な関係性」を求めて —

北出真紀恵

詩余ものがたり 北宋篇(二) — 清・葉申郷『本事詞』 —

松尾 肇子

校本詩学大成抄(一)

小林幸夫・松尾肇子・大島絵莉香

・第十三号(通巻第七十二号)平成二十六年 三月

「一夜白髪」のころ — 白髪天神説話と北野の神詠 —

小林 幸夫

石仏幻想の路 — 三遠信にキリシタン文化を探して —

春日井眞英

与謝野晶子作・鉄幹哀悼の短歌「寢園」をめぐって

西村富美子

角田光代『紙の月』を読む

北出真紀恵

— まやかしの〈愛〉とまやかしの〈わたし〉 —

高橋 一元

スクリーンの向こうとこちら — 現代影絵劇の動向 —

松尾 肇子

詩余ものがたり 北宋篇(三) — 清・葉申郷『本事詞』 —

小林幸夫・松尾肇子・大島絵莉香

校本詩学大成抄(二)

小林幸夫・松尾肇子・大島絵莉香

第十四号(通巻第七十三号)平成二十七年 三月

石の仏に見る隠された顔 — 石仏のイコノロジー(2) —

春日井眞英

女性アナウンサーの八〇年代

北出真紀恵

— 「アナウンサーらしさ」の改革の後で —

詩余ものがたり 北宋篇(四) — 清・葉申郷『本事詞』 —

校本詩学大成抄 (三)

小林幸夫・松尾肇子・大島絵莉香

北海道浦河町「べてるの家」における「治療文化」に関する考察

―「場所性」「歴史性」「周縁性」の観点から― (1) ―

早野 禎二

・第十五号 (通巻第七十四号) 平成二十八年 三月

山田美妙初期草稿の問題 (2)

―「智」「情」の言説と「詩」の位置づけ―

内山英保編輯 和漢アンソロジー『冬柏山房抄』の意義

―与謝野寛・晶子と鎌倉文学サロン―

石の仏に見る隠された顔 ―愛知県東栄町の石造文化財を

中心として― 石仏のイコノロジー③

藤子・F・不二雄におけるへもう一人の自分

詩余ものがたり 北宋篇 (五) ―清・葉申郷『本事詞』―

大橋 崇行
西村富美子
春日井眞英
大場 厚志
松尾 肇子

校本詩学大成抄 (四)

小林幸夫・松尾肇子・大島絵莉香

北海道浦河町「べてるの家」における「治療文化」に関する考察

―「場所性」「歴史性」「周縁性」の観点から― (2) ―

早野 禎二

・第十六号 (通巻第七十五号) 平成二十九年 三月

伊勢の「歌占人」 ―産土の神祭と陰陽師―

与謝野鉄幹・晶子主宰「明星」の最終の同人誌『冬柏』

―異彩の同人 井上蒼溪について―

E・A・ポーの「黒猫」とその映像化について

石の仏に見る隠された顔 ―石仏を考える―

(石仏のイコノロジー⑦)

小林 幸夫
西村富美子
大場 厚志
春日井眞英

家事労働と「愛」をめぐる一考察

―テレビドラマ「逃げるは恥だが役に立つ」を題材に―

北出真紀恵

詩余ものがたり 北宋篇 (六) ―清・葉申郷『本事詞』―

松尾 肇子

校本詩学大成抄 (五)

小林幸夫・松尾肇子・大島絵莉香

・第十七号 (小林幸夫教授追悼号) (通巻第七十六号)

平成三十年 三月

序

研究業績一覧

さようなら考 ―その成立と別れの挨拶表現のシステム変化―

小林 幸夫
田島 優

紫の上は六条院で終焉を迎えた

散逸物語『みかきが原』の再検討 ―人間関係を中心に―

嘉藤久美子
宮田 光

文体様式としての「人情噺」

―三遊亭円朝「怪談／牡丹灯籠」と坪内逍遙『小説神髓』

大橋 崇行

「文体論」との関係―

尾張国の仏像にみる中央と地方
小野 佳代

石の仏に見る隠された顔 ―東栄町の石仏を中心として―

春日井眞英

(石仏のイコノロジー⑨)

空飛ぶ診療所

―京都放送「早川一光のぼんざい人間」を事例として―

北出真紀恵
丹羽 一彌

方言調査で面接の方法

〈研究ノート〉『詩学大成抄』に見える書籍をめぐる

松尾 肇子

〈研究ノート〉林羅山『歌行露雪』考(一)
〈研究ノート〉三浦哲郎初期恋愛小説

西村富美子

―『週刊平凡』にみる―

近藤 洋子

詩余ものがたり 北宋篇(七)

―清・葉申薈『本事詞』―

松尾 肇子

〈随想〉小林幸夫先生を偲んで

高野 春廣

〈随想〉小林さんの思い出

早野 禎二

・第十八号(通卷第七十七号)平成三十一年 三月

落語化する「素人洋食」

大橋 崇行

―山田美妙原作から三遊亭円遊口演へ―

西村富美子

与謝野鉄幹と漢詩 ―『滿蒙遊記』付『滿蒙遊草』の漢詩(二)―

石の仏に見る隠された顔

―見立てという視点から考える―

〈研究ノート〉極私的「テレビ人形劇」史

―画面のこちら側から―

春日井眞英

詩余ものがたり 南宋篇(一)

―清・葉申薈『本事詞』―

高橋 一元

・第十九号(通卷第七十八号)令和二年 三月

京都府立京都学歴彩館寄託『風葉和歌集』(山本本)について

『やまと新聞』における「小説」と「メロドラマ」の翻訳

―三遊亭円朝「錦の舞衣」をめぐる―

木喰の立木仏・子安観音・子安地藏から考える

宮田 光・安田 徳子・乾 澄子

―石仏の隠した世界―(石仏のイコノロジー⑩)

大橋 崇行

詩余ものがたり 南宋篇(二)

―清・葉申薈『本事詞』―

春日井眞英

基底核を発動する連体修飾の検証

松尾 肇子

―寺村秀夫の用例を対象にして―

樋野 幸男

・第二十号(通卷第七十九号)令和三年 三月

陽明文庫蔵 新井白石「鄙作意解」をめぐる

松尾 肇子

講談と落語のあいだ ―初代快樂亭ブラック「英国実話／孤児」が示すもの

大橋 崇行

『冬柏』…新詩社『明星』の未完の終焉 ―その軌跡―

西村富美子

翼を持つ石像の分布 ―一石三十三観音の石像から―

(石仏のイコノロジー⑪) 春日井眞英

詩余ものがたり 南宋篇(三) ―清・葉申薈『本事詞』―

松尾 肇子

精神障害者の社会関係資本形成とCapabilityの関連について

―社会福祉基礎構造改革以前と以後の比較の視点から―

早野 禎二

基底名詞句ノ頭在スル準体構造の粗描

樋野 幸男

・終刊号(通卷第八十号)令和五年 九月

額田王と額田姫王 ―別人説から見えてくる世界―

加藤 孝男

『源氏物語』における「やつる」「やつす」

―男君、女君の人生を彩る言葉として―

「勾兵部卿」巻考 ―薫と勾宮の年齢―

宗祇筆『源氏物語』について ―空蟬・梅枝・宿木・浮舟・手習・夢浮橋を中心に―

宮田 光

『宇津保物語』「国譲上」の「仮名手本」について(再考)

田島 優

陽明文庫蔵 新井白石「楼名」をめぐって

松尾 肇子

「人情」と心理学 坪内逍遙『小説神髓』再読

大橋 崇行

癒される漱石 — 俣野義郎と野村伝四 —

藤井 淑禎

恩田陸「六番目の小夜子」論 — 小夜子とは誰なのか —

中川 智寛

山崎豊子『運命の人』が問いかけるもの

北出真紀恵

民主主義とテレビの選挙報道

高野 春廣

— 国政選挙「テレビ報道」のモニター調査 —

高野 春廣

中世和化漢文における貸借表現 — 「かす」と「かる」 —

三宅ちぐさ

— 一宮市妙興寺の弁才天像と南無仏太子像

小野 佳代

— 未指定文化財から県登録文化財へ —

春日井眞英

— キリスト教的視点から子どもを抱く石仏を考える

春日井眞英

— 子ども・仔馬を抱く石像を考える —

大場 厚志

E・A・ポー「落とし穴と振り子」の映画化について

大場 厚志

現在日本における学と知の危機

— フランクフルト学派の理論と思想の視点から —

早野 禎二

人形劇「なかよし」はどこが面白いのか

高橋 一元

— 幼児は人形劇をどう見ているか —

田島 毓堂

語彙総体論的研究の進展の期待

(文責 近藤洋子 松尾肇子)